

シグマ研究委員会
昭和56年度第10回運営委員会議事録

日 時 昭和57年3月26日(金) 13:30 ~ 17:30
場 所 原研本部 第7会議室
出 席 者 原田(委員長, 原研)
飯島(NAIG), 大竹(富士), 中嶋(法大), 久武(東工大),
松延(住友原工), 田中, 五十嵐(原研)
オブザーバ: 北沢(東工大), 西村, 松浦, 松本, 浅見(原研)

配布資料

1. 第9回運営委員会議事録(案)
2. 監査小委員会答申書
3. 57年度委員名簿(案)
4. JENDL 積分評価WG
5. ガンマ線生成核データWG 昭和57年度活動計画
6. 核融合核データWG 56年度活動及び57年度計画
7. 評価WG 57年度計画概要
8. ファイル作成WG(仮称) 57年度計画
9. The First Meeting on the Scientific Coordinating Group of the
Joint Program on Neutron Data Evaluation
10. Co-ordination of Evaluation Activities in NEA Data Bank
Participating Countries
11. 特殊目的核データに関する ad-hoc 小委員会中間報告

議 事

1. 前回議事録確認

資料1.により確認を行い, 一部の字句の訂正の上了承された。前回の議事に関連して, 原田氏から医学用核データに関するWGについてはメンバー

の選定中であるので具体案が固まってから提案したいとの発言があった。

2. 事務局報告

(1) 長期計画

五十嵐氏から現在、原研の長期計画の改訂作業中であって、核データセンターで当面の計画について資料を作成して提出するが、 regional center 等のこともあるので意見があったら出して欲しいとの要請があった。

(2) IAEA Dosimetry File

International Reactor Dosimetry File (IRDF-82) を入手し、核データセンターで利用できるようになっていたことが浅見氏から報告された。

(3) IAEA/NDS の岡本氏が7月に帰国する。

(4) 燃料サイクル核データWGのレポート(JAERI-M 9993)の印刷が出来上がったことが報告された。

3. 監査小委員会報告

田中氏から、3月6日に行われた監査小委員会の概要について報告があった。審議の詳細については、後の関連議事の際に報告してもらうことにした。

4. 特殊目的核データの ad-hoc 委員会報告

西村氏から、この ad-hoc 委員会の中間報告として、資料 11. により 3 月 24 日に行われた第 2 回会合での討議の概要について説明があった。

5. 57 年度計画について

(1) ガンマ線生成核データWG

北沢氏から資料 5. にもとづき、本年度の活動の概要と 57 年度計画について説明があった。これに対して、離散ガンマ線データの格納・検索プ

ログラム DIGSTER 及び離散ガンマ線データの取扱いについて質疑応答があり、この問題はWGで検討して欲しいとの要請があった。

(2) 核融合核データWG

浅見氏から、資料 6.によりWGの 56 年度活動と 57 年度計画の概要について説明があった。57 年度作業のうち、核融合炉、遮蔽定数WGの DDX 作業と関連する部分、プロットする threshold reaction データの範囲等について議論があった。

(3) 評価WG

飯島氏から、資料 7.を用いてこの新設のWGの 57 年度計画の概要、予定のWGメンバー等について説明があった。とくにガス生成核データsub WGの性格や JENDL-3との関連について議論があり、軽核と重核については 57 年度は sub WGを設けないとの説明があった。

(4) ファイル作成WG

浅見氏から、資料 8.により新設WGの目標及び 57 年度の作業計画について説明があった。それに対して、NESTOR 2の整備や処理コードの整備は核データセンター独自の仕事であり、WG作業でやるのは不適當であるとの意見が出た。

6. シグマ委員会委員名簿の改訂の中間報告

57 年度の本委員会(シグマ特別専門委員)について、先に行われた郵便による投票の結果について浅見氏から説明があり、諾 26 名、否 1 名、無回答 3 名で本委員名簿は承認されたことが報告された。また、資料 3.により 57 年度の各WGのメンバー、とくに新メンバー及び辞任者について報告があり了承された。

7. シグマ特別専門委員会の内規の改訂

田中氏から、資料 2.により内規の改訂案の骨子、付帯意見及び監査小委員会での討議の経緯について説明があり、審議を行った。改訂点の主な点は次のようであった。

- 監査小委員会 → 諮問・調整委員会
- 委員の任期 1 年 → 2 年
- 主査の人選に関する文章(内容は変化なし)
- 運営委員の構成及び委員数
- 諮問・調整委員会委員の数，とくに運営委員会からの参加を 2 名以内で認めることにした。
- 諮問・調整委員会の役割
- オブザーバーの出席

とくに，主査の人選の項の文章は未だ解りにくいこと及び委任状の取扱いが不明確であることから，次のように修正することにした。

「選挙は全委員数の 2/3 以上の出席(不在投票者を含む)をもって成立するものとし，単記投票により総票数の過半数を得る者を主査と決定する。得票数が過半数に満たない場合には，出席者により上位得票者について再投票を行う。上位得票者とは，最上位得票者から順次下位の得票者へ得票数を積算するとき，その得票数の合計が過半数となるまでの得票者をいう。」

(アンダーラインを付した部分が，修正又は挿入の箇処)

このような修正を加えたものを改正案として本委員会(シグマ特別専門委員会)に提案し，了承を求めることにした。

8. 57 年度運営委員等の推薦

原田氏から，議事 7. で審議した内規の改訂に沿って 57 年度の運営委員及び諮問・調整委員に次の方々を推薦され，了承された。

運営委員：原田吉之助(主査)，五十嵐信一(核データセンター室長)

菊池康之，関 雄次，中嶋龍三(以上専門部会長)

白方敬章，梶山一典，中沢正治，山本正昭(以上原研外の
関連機関代表)

田中茂也，松浦祥次郎(以上原研内関連部代表)

諮問・調整委員：

安 成弘，飯島俊吾，大竹 巖，梶山一典，田中茂也，
塚田甲子男，久武和夫，更田豊治郎，松延廣幸，山室信弘
この件は，次の本委員会で正式に承認をうることにした。

9. 本委員会の準備

五十嵐氏から，本年度の本委員会は内規の改正案や運営委員等の了承があるので4月中にやりたいとの発言があり，期日は4月22日(木)または5月7日(金)とすることにした。また，本委員会の議題は(1)主査の選挙，(2)内規改正案審議，(3)委員会人事，(4)各WGのハイライトの話，(5)研究会等とすることにした。

10. その他

- (1) 中嶋氏から資料10の説明があった。
- (2) 田中氏から ANL で行われる Specialists' Meeting of Fast-Neutron Capture Cross Sections に米国滞在中の藤田氏(京大炉)が出席するとの紹介があった。